

札幌キャンパスを駆け抜ける—「北海道マラソン2017」 「パブリックスピーキング講座」及び「メディアトレーニング講座」を開催

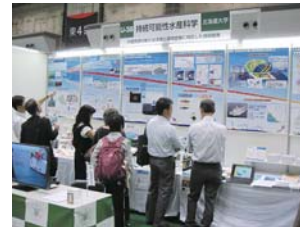
お知らせ

- ・ドイツから返還されたアイヌ民族のご遺骨の安置について
- ・外国人留学生向け賃貸住宅仲介店舗を設置





北海道大学進学相談会



イノベーション・ジャパン2017出展

全学ニュース

- 1 名和総長に忠北大学校（韓国）が名誉工学博士号を授与
- 1 札幌キャンパスを駆け抜けるー「北海道マラソン2017」
- 2 「パブリックスピーキング講座」及び「メディアトレーニング講座」を開催
- 3 北大フロンティア基金
- 5 平成29年度オープンキャンパスを開催
- 6 「北海道大学進学相談会」を東京で開催
- 7 平成29年度教員免許状更新講習を開催
- 7 平成29年度北海道大学鈴木章記念賞ー自然科学実験ー被表彰者の決定
- 8 平成29年度小島三司奨学金受給者の決定
- 8 国際連携機構日本語研修コース修了式(2017年4月入学者)
- 9 平成29年度国際連携機構外国人留学生送別会を開催
- 10 高等教育研修センターにて各研修等を開催
- 11 平成29年度科学研究費助成事業大型研究種目に採択
- 12 イノベーション・ジャパン2017に出展
- 13 北洋銀行ものづくりテクノフェア2017に出展
- 13 IoT/AI技術で切り拓く農業改革等への糸口「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2017」を実施
- 14 北海道経済連合会が工学研究院視察を実施
- 14 Hokkaidoサマー・インスティテュート&国際ソフトマターサマースクール2017を開催
- 15 「先端ソフトマターに関する北海道大学-ImPACTジョイントシンポジウム：一分子からタフポリマーへ」開催
- 15 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第4回医学物理サマースクールを開催

部局ニュース

- 16 「北海道大学-北京科技大学 協定締結30周年記念式典」を開催
- 17 工学研究院で「日中韓工学系合同シンポジウム関係校会議」を開催
- 17 水産科学研究院でひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～「これが意外とムズカシイ！ヤドカリたちの社会関係」を実施
- 18 北海道大学獣医学部×札幌市円山動物園 市民公開講座「科学する動物園ー大学と動物園の連携が拓く未来ー」を開催
- 19 北方生物圏フィールド科学センターでサステナビリティ・ウィーク2017公開講座「日米における古くからの農法から農業のサステナビリティを学ぶ」を開催

北方生物圏フィールド科学センター
じゃがいも掘り公共政策大学院
地方公務員向け・地方議員向けサマースクール

- 20 北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催
- 21 法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「社会の分断をいかに乗り越えるか？」が終了
- 22 法学研究科サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題ー著作権・不正競争・意匠・商標編ー」を開催
- 22 公共政策大学院が「地方公務員向け・地方議員向けサマースクール」を開催ー夕張市の財政破綻の経緯を踏まえ自治体財政の健全化について討議ー
- 23 薬学研究院が「第10回薬学研究院研究発表会」を開催
- 24 教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2017（夏季北大プログラム）を開催
- 25 農学院において「留学生オリエンテーション」を開催
- 25 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 26 附属図書館でフィンランドをテーマとした図書展示を開催
- 26 附属図書館で「数学」「物理学」「統計学」入門図書展示を開催

お知らせ

- 27 ドイツから返還されたアイヌ民族のご遺骨の安置について
- 27 外国人留学生向け賃貸住宅仲介店舗を設置

レクリエーション

- 28 学内教職員ソフトボール大会の開催
- 29 平成29年度学内バレーボール大会の開催
- 30 教職員テニス大会の開催

研修

- 31 平成29年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修

表敬訪問 32

人事 33

- 33 新任教授紹介

訃報

- 34 名誉教授 塩川 洋之 氏
- 35 名誉教授 大野 公男 氏
- 35 名誉教授 太田原高昭 氏
- 36 名誉教授 村田 和美 氏

農学院
留学生オリエンテーション附属図書館
「数学」「物理学」「統計学」入門図書展示

表紙：平成29年度オープンキャンパス（関連記事5頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑤4 噴火湾秋景

■全学ニュース

名和総長に忠北大学校（韓国）が名誉工学博士号を授与

8月23日（水）、忠北大学校の開新文化館で2016学年度後期学位授与式が行われ、名和豊春総長に名誉工学博士号が授与されました。名和総長は工学分野の教育及び研究並びに大学経営及び日本の高等教育発展に大きく寄与した功労が特に評価されました。

忠北大学校は、韓国忠清北道清州市に位置する拠点国立大学校の一つであり、韓国大学校の学生満足度調査においては、3年連続1位に輝いた実績があります。本学との大学間交流協定は2013年1月に結ばれましたが、共同シンポジウムやインターンシップによる学生交流などの活動は、2001年から工学部を中心として活発に行われてきま

した。

名和総長は、受賞スピーチにおいて、忠北大学校が1951年の開学以来、輝かしい伝統を築いてきたこと、また、グローバル化に対応し、多くの優秀な人材を輩出していることに敬意を表し、最後に、名誉工学博士号を賜ったことに対し心から感謝の意を表しました。

学位授与式の後、名和総長は大学の創業保育センターを視察し、学生創業サークルが自由に使える空間の中で、奮闘している学生を励ましました。

式典前には名和総長と北海道大学韓国ヨルリョンチョ（韓国語で「エンレイソウ」）会のメンバーとの朝食会が

開かれ、韓国におけるアンバサダーやパートナーの活動及び本学における海外ネットワーク作りとその支援事業などについての意見交換が行われました。

（国際部国際連携課）



受賞スピーチをする名和総長

札幌キャンパスを駆け抜ける―「北海道マラソン2017」

「北海道マラソン2017」が8月27日（日）に開催され、秋の気配が感じられる青空の下、男女15,687人^{*}のランナーが本学札幌キャンパスを駆け抜けました。

ランナーたちはレース終盤の38km付近から本学構内に入り、緑あふれるメインストリートを通り、クラーク像を右手に眺めつつ中央ローンの木陰を通り、札幌農学校時代の正門を移設した南門からゴールの大通公園を目指しラストスパートをかけていきました。

2009年大会からコースに加えられた本学キャンパスには大勢の市民が駆け

つけ、その温かい声援や激励、涼やかな景色が気力を振り絞り力走する選手たちを後押ししました。

なお、本マラソンの様子は、UHB・北海道文化放送とBSフジで生中継さ

れました。

^{*}フルマラソンの出場者数

（総務企画部広報課）



男子優勝の村澤明伸選手



女子優勝の前田穂南選手



メインストリートを力走するランナー



総合博物館前の給水所



中央ローン横を駆け抜けるランナー

「パブリックスピーキング講座」及び「メディアトレーニング講座」を開催

総務企画部広報課では、9月11日（月）・12日（火）に事務局において、「パブリックスピーキング講座」及び「メディアトレーニング講座」を開催しました。

これらは、総長のリーダーシップに基づく戦略的広報実施の一環として企画した初の試みで、広報に関する研修を国内で幅広く実施している日経メディアマーケティング株式会社から、実際に記者経験のある方等を講師としてお招きし、学内の教職員延べ38名が受講しました。

11日（月）は、総長・理事を対象とした「パブリックスピーキング講座」

を開催しました。危機管理対応力の強化を目的とした本講座では、メディアの特徴やスピーチに必要なスキルについて、演習を交えながら解説があったほか、実際の記者会見を想定した実習を行いました。特に、記者歴30年以上の講師が記者役となって本番同様の質疑応答のトレーニングが行われるなど、大変貴重な機会となりました。

12日（火）は、広報実務に携わる教員と事務職員等を対象とした「メディアトレーニング講座」を開催しました。本講座は大学設置基準の改正を受け、メディアを介する広報について広報シーズを持つ教員とメディアへ橋渡

しする事務職員が協働して職務を行うことができるよう研修の機会を設けたものです。効果的な広報リリースについて、事例を交えながらの解説と演習が行われ、グループワーク形式による演習では、事前課題で提出した各々のプレスリリースの改善点を話し合うなど、活発な意見交換が行われました。事後アンケートでは、全体を通して大変有意義だったとの感想が多数寄せられ、多くの受講者に好評を得られた研修となりました。

（総務企画部広報課）



「パブリックスピーキング講座」
記者会見トレーニングの様子



「パブリックスピーキング講座」
講義の様子



「メディアトレーニング講座」
グループワークの様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（8月31日現在）

21,129件 4,218,709,264円

8月のご寄附状況

法人等16社、個人271名の方々から27,038,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医歯薬出版株式会社、株式会社エムコム、長田電機工業株式会社、クインテッセンス出版株式会社、株式会社札幌デンタル・ラボラトリー、株式会社ソーせい、月島食品工業株式会社、柏楊印刷株式会社、ヒューフレディ・ジャパン合同会社、株式会社フリークス、有限会社ヘンミ歯科技研、北海道大学生協同組合、株式会社モリタ

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相澤 隆	青木 和史	青木 伸	赤坂 司	赤坂 真琴	浅野 賢二	芦田 庄司
阿部 和己	雨宮 璋	荒井 和之	栗野 俊哉	五十嵐雄大	井口 登	池田 智之	池田 雅彦
池田 欣希	石川 博之	石坂 宏嗣	石野 佳弘	和泉 晶裕	糸井 由佳	伊藤 寛志	伊藤 豊
井上 清嗣	井上 勉	井上農夫男	入澤 秀次	梅本 光男	江崎 真代	江端 正裕	海老原裕磨
遠藤 煥	大島 尚久	太田真知子	大橋 幸恵	大森久仁子	岡 正久	岡村 圭祐	岡村 芳輝
荻野 英二	奥山 正人	小澤 雅彦	音羽 浩幸	小内 透	小畑 真	小原 大和	帰山 雅秀
加賀 幸彦	笠原 和恵	梶井 貴史	片桐 洋一	加藤 元	金川 眞行	兼平 孝	梶島 孝典
川浪 雅光	河野 好治	河端 哲也	河本 充司	菊地 奈湖	北川 善政	北村 佑一	鬼頭 康之
木村 邦昭	木村 正人	清原 秀三	日下 大器	楠本 裕之	工藤 豊	久保 大輔	倉島 庸
黒木 潔治	桑田 芳男	小泉 英満	小出 奈央	五木田恒明	湖口 正裕	小林 章二	小林 祐子
小松 雅樹	小松 倫也	小路口研治	近藤 慈夫	斉藤 久	酒井 満明	坂上 竜資	坂倉 雅夫
桜井 謙介	桜井 尚	佐藤 清	佐藤 舜	佐藤 淳	佐藤 俊則	佐藤 亘也	佐藤 暢也
佐藤 真理	里保 昭江	澤田 孝之	三升畑元基	三分一博基	塩満 正哉	設楽 雅代	七戸 俊明
柴崎 元	清水 智之	下地 善榮	春藤 憲男	白幡 貴行	城本 敬	新藤 高士	末谷 誠一
杉江 豊文	須田 成雄	関口 隆	関根 和敏	瀬名波栄潤	平良 賢剛	孝口 雅宣	高杉 正人
高田 保之	高橋 啓	高橋 太郎	高橋 尚子	高橋 保樹	高村 佳明	高山 芳幸	詫間 滋
竹内 真吾	楯 了悟	田中 悟	田中 伸哉	田中 美希	田辺 匡史	玉井 美保	玉川 博文
玉田 伸二	佃 宣和	津田 敏孝	土川 貴裕	土家 琢磨	土屋 俊彦	鄭 明源	出口 達也
寺澤 睦	富岡 伸行	富田 裕	豊田 威信	内藤 隆夫	永雄裕美子	長坂 俊晴	中里 博幸
中村 史朗	中村 太保	中村 努	中村 透	中村 昌弘	中村 渉	那須 肇	鳴海 勝敏

二階堂正直	西方 聡	野川 哲義	野路 武寛	野田 道博	野谷 健一	萩原 淳	橋本 慶吾
早川 次郎	原 猛機	伴 敏哉	畔田 貢	東野 史裕	樋口 俊夫	樋田 京子	平野 聡
平野 正康	平山 晃也	廣山 雅敏	深井 剛	福富 弦	福永徳三郎	福本 博之	藤原 一彦
二俣 隆夫	千野 洋	堀 芳弘	本田 健	増木 英郎	増永 健一	松井 一郎	松沢 幸一
松澤 直昭	松下由紀彦	松永 和夫	松村 芳明	丸山 孝士	三古谷 忠	三嶋 博之	水上 直弘
水越 孝典	水谷 匡宏	水谷 洋一	三井 義久	皆川 一志	南 登志靖	村上 壮一	村谷雄一郎
森下 長	森田 泰典	森本 義興	八木 教之	山口聡一郎	山崎 眞義	山下 礼子	山田 哲男
山田 直樹	山田 尚	大和 紀正	山本 栄治	山本 隆昭	山本 恒之	八若 保孝	横田 秀一
吉田 広志	吉田 靖弘	吉野 純子	吉村 善隆	米田 光雄	渡邊 一洋	渡邊 諭	

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(個人)

伊藤 寛志, 倉島 庸, 七戸 俊明, 末谷 誠一, 田中 伸哉, 土川 貴裕, 平野 聡, 皆川 一志

感謝状の贈呈



ANAホールディングス株式会社 様
(平成29年8月25日)

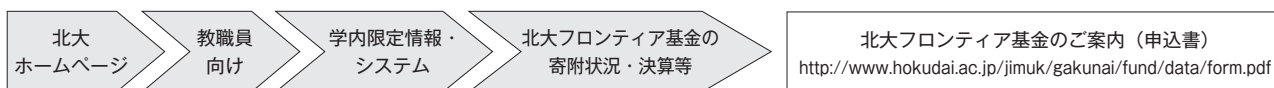


特定非営利活動法人メディカルイメージラボ 様
(平成29年8月31日)

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は, 本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし, ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて, 事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は, 本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか, 各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので, ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

平成29年度オープンキャンパスを開催

8月5日（土）から8日（火）までの4日間、札幌・函館の両キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催しました。

期間中は好天に恵まれ、本学は大勢の参加者で賑わいました。昨年度と同様、延べ1万人を超える参加者が来場

しました。

主に6日（日）に開催された「自由参加プログラム」では、高校生だけでなく、多くの保護者や市民の方々が学部・学科紹介や研究室訪問に訪れました。

また、12学部等では実験や体験ゼミ

等による「高校生限定プログラム」が主に7日（月）に開催され、参加した高校生等にとっては大学における学びの一端を味わう貴重な機会となりました。

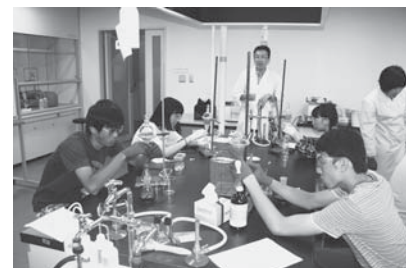
（アドミッションセンター）



来場者で賑わう様子



理学部「自由参加プログラム」の様子



農学部「高校生限定プログラム」の様子

来場者数

	自由参加プログラム	高校生限定プログラム	部局等別合計
文学部	850	94	944
教育学部	363	99	462
法学部	774		774
経済学部	493	194	687
理学部	1,479	111	1,590
医学部医学科	440	188	628
医学部保健学科	1,026	130	1,156
歯学部	134	28	162
薬学部	1,010		1,010
工学部	1,135	320	1,455
農学部	683	166	849
獣医学部	672	45	717
水産学部	452	60	512
環境科学院	50		50
附属図書館（本館・北図書館）	432		432
総合博物館	6,239		6,239
国際連携機構	100		100
北大キャンパスビジットプロジェクト	188		188
高等教育推進機構		23	23
進学相談会、特別修学支援室	486		486
総計〔人〕	17,006	1,458	18,464

「北海道大学進学相談会」を東京で開催

本学主催の「北海道大学進学相談会」を8月19日（土）に東京で開催しました。

本相談会は平成19年度に東京で初開催して以降、今年度で11回目の開催となり、東京での開催は昨年度に引き続き8月としました。

会場では名和豊春総長，長谷川晃理事・副学長をはじめ，各学部やアドミッションセンターの教職員，在学生

等，合わせて70名超が高校生等やその保護者への説明・相談に当たりました。

当日は，名和総長の挨拶を皮切りに，全体説明として長谷川理事・副学長が本学の魅力について説明を行い，藤田 修アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明の後，新渡戸カレッジの説明，学部紹介等を行いました。また，並行して

全12学部のブースや，在学生との対話コーナー等において個別相談対応を行い，多くの高校生・保護者等がブースを訪れていました。

来場者数は昨年度を大きく上回る過去最高の1,203人となりました。10月8日（日）には大阪で開催します。

（アドミッションセンター）



全体説明で挨拶する名和総長



本学の魅力について説明する長谷川理事・副学長



総長・副学長と話そうコーナー



来場者で賑やかな会場内



入試・総合相談



北大生と話そうコーナー

平成29年度教員免許状更新講習を開催

7月29日（土）から8月19日（土）にかけて、今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

現在教員免許を持っている現職教員等は、10年ごとに設定される修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域・選択必修領域においてはそれぞれ6時間、選択領域においては18時間）を受講・修了し、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請する必要があります。本講習制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために、平成21年

4月1日に導入されました。

平成21年度以降、本学では毎年講習を実施しており、今年度も様々な学校種の教員等を対象として、全8講習を開催しました。夏休み期間を中心に開催したことや、バラエティに富んだ内容の講習を開設したこともあり、必修領域の受講者数116名、選択必修領域の受講者数119名、選択領域の受講者数は6講習あわせて249名の方々の参加がありました。

講習では、担当講師からのオリエンテーションの後、各テーマに関しての講義や実習が行われ、講習のまとめとして修了認定試験を行いました。講習後に寄せられたアンケートでは、「これまで受けたどの講義よりも意義深い

ものになった」「改めて学校現場に立つための示唆を得られるものだった」「迷い、ためらいが減り、勇気が出た」などの意見があった他、実習を主とする講習の受講者からは、「理科学的なことはもちろんだが、閉鎖空間での3日間の生活によって気づいたり学んだことはたくさんあった。多くの先生方に受講してほしい」などの意見が寄せられ、本講習の意義を改めて感じる良い機会となりました。

なお、今年度開催した講習は以下のとおりです。受講者の皆様、大変お疲れ様でした。

（学務部学務企画課）

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方向	8/13	6時間	120人	116人
選択必修	子ども・家族理解の視点と学校での協働	8/11	6時間	120人	119人
選択	死生学といのちの教育	7/29	6時間	50人	49人
	理系の応用技術：工学の世界	8/4	6時間	40人	28人
	新しい高校地理と地域科学	8/8	6時間	50人	17人
	特別支援教育	8/12	6時間	120人	116人
	数学の多様性	8/14	6時間	30人	24人
	練習船による水産科学実習	8/17～8/19	18時間	16人	15人



「練習船による水産科学実習」の様子

平成29年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験— 被表彰者の決定

この度、平成29年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—の第1学期被表彰者2名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設され、今年度から名称を「鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—」から「鈴木章記念賞—自然科学実験—」とし、今回を含め43名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学

実験」において、特に優秀な成績を収め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者は各学期3名程度、毎年6名程度で、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者と共に、平成30年3月に行います。

（学務部学生支援課）

平成29年度第1学期被表彰者

17組 山口 颯人
17組 大野 雅史

平成29年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、平成29年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与することを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、1名（生命科学院）の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった者を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、1年間にわたり月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

平成29年度受給者

生命科学院 白木 柚葉

国際連携機構日本語研修コース修了式（2017年4月入学者）

国際連携機構日本語研修コース研修生の修了式を、8月8日（火）に国際連携機構大会議室において行いました。

この日本語研修コースは、大使館推薦の国費外国人留学生に対して大学院進学前の予備教育として開設されている6か月間の研修コースで、今回修了した研修生は、本年4月に入学した11か国からの12名です。10月からは、11

名が本学の大学院等で、1名が帯広畜産大学で、引き続き学ぶことになっています。

修了式では、国際教育研究センター教員や指導教員が見守るなか、笠原正典国際連携機構長から留学生一人ひとりに修了証書が授与されました。

続いて、笠原国際連携機構長より日本語でお祝いの言葉があり、学生は6か月間日本語を学んだ成果を生かし

て、日本語のスピーチを聞き取ろうと真剣に耳を傾けていました。

最後に集合写真を撮影しましたが、その後もしばらく学生たちは、指導教員やこの半年間で親しくなった学生同士で、お互いに写真撮影したり懇談したり、別れを惜んでいるようでした。

(国際部国際教務課)



修了証書を受け取る学生



集合写真

平成29年度国際連携機構外国人留学生送別会を開催



集合写真

8月8日(火)、北部食堂において、国際連携機構が実施する短期留学プログラム(HUSTEP、日本語・日本文化研修コース、日本語研修コース)を8月に修了する留学生を対象として送別会を開催しました。教職員含めて約130名の参加があり、新渡戸カレッジ生、先輩学生・留学生等、ボランティア9名が企画、運営にあたりました。

パーティーは、司会の蟹江紗耶子さん(農学院修士課程2年)、春山竜太郎さん(総合教育部文系1年)で進行し、国際連携機構を代表して国際教育研究センターの小林由子教授の挨拶に始まり、日本語研修コースのサジャットカマルさん、日本語・日本文化研修

コース代表の楽 齊さん、HUSTEP代表のマイルズ ステュアート フィリップ レノックスさんからそれぞれ修了生代表挨拶がありました。すっかり上達した日本語でのスピーチもあり、目を見張るものがありました。そして国際教育研究センターの山下好孝教授による乾杯の発声で歓談となり、学生同士はもちろん、お世話になった先生方と語らいました。

パーティーの後半では、アトラクションのビンゴゲームを楽しみ、賞品の北大グッズを嬉しそうに受け取る留学生の姿もありました。

「北海道大学ブルーグラス研究会」による演奏で、バンジョー、バイオリ

ン、ギター等アメリカのカントリー音楽の美しいハーモニーが響き、思わず踊り出す参加者もいました。また、「北海道大学バンザイ魂」の4名が赤いはんてん姿で現れ、元気なバンザイパフォーマンスを披露し、修了後帰国する留学生に向けてエールを送りました。独特な形のバンザイを伝授してくれ、全員笑顔のバンザイで会場は大いに盛り上がりました。

本学での留学期間中の思い出話に花を咲かせたり、記念写真を撮影したりと、いつまでも別れを惜しむ姿が見られました。

(国際部国際教務課)



司会の蟹江さん(左)と春山さん(右)



日本語研修コース代表 カマルさんの挨拶



音楽に合わせて踊る参加者

高等教育研修センターにて各研修等を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、8月に以下のとおり各研修等を開催しました。

(高等教育推進機構)

講演会「Practical use of IR data, and training researchers in charge of IR (IRデータの有効活用とIR研究者の育成)」 参加者：31名

開催日：8月10日(木)

開催場所：情報教育館スタジオ型多目的中講義室

研修概要：IR (Institutional Research) 機能を重視する大学は増え続けており、データの取得から活用方法に関する議論だけではなく、IRを担当する専門家の育成が課題として取り上げられるようになってきている。膨大なデータを有意義な情報へと翻訳し、大学における様々な意思決定場面でどのように活用していくか、アメリカの事例から学ぶことを目的として開催。



講演会「Practical use of IR data, and training researchers in charge of IR」

ワークショップ「授業運営の苦悩～解決策を探る～」 参加者：11名

開催日：8月18日(金)

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室(2)

研修概要：様々な努力、工夫を行った上で授業をしているにもかかわらず、肝心の学習者がついてこない、このような悩みを抱える教員が集い、各自の悩みを共有し、解決策を考えることを目的として開催。



ワークショップ「授業運営の苦悩～解決策を探る～」

Teaching in English ワークショップ 参加者：17名

開催日：8月21日(月)

開催場所：高等教育推進機構S講義棟S5講義室

研修概要：近年は留学生の増加や大学のグローバル化対応に伴い、英語による授業の増加が期待されている。これから英語で授業を行おうとしている教員を対象に英語で授業を行う際の注意点等について考えることを目的として開催。



Teaching in English ワークショップ

平成29年度第2回北海道大学TF研修会 参加者：39名

開催日：8月22日(火)

開催場所：高等教育推進機構S講義棟S5講義室等

研修概要：TF (ティーチング・フェロー) 従事予定者を対象に、大学院生が学部教育に参加するにあたって、事前に大学教育の基礎及び教育現場で守らなければならない心得を理解することを目的として開催。なお、本研修は、TFとして採用されるために、修了を義務づけられている研修の一つとなっている。



平成29年度第2回北海道大学TF研修会

平成29年度科学研究費助成事業大型研究種目に採択

この度、平成29年度科学研究費助成事業大型研究種目の新規採択結果が公表され、「特別推進研究」に低温科学研究所の渡部直樹教授が研究代表者を務める研究課題が、「新学術領域研究」に理学研究院の加藤昌子教授が領域代表者を務める研究領域が採択されました。

(研究推進部研究振興企画課)

【特別推進研究】

国際的に高い評価を得ている研究で、特に多額の研究費を必要とする研究について重点的に研究費が交付されるもので、格段に優れた研究成果を期待するもの。

研究課題の概要

研究代表者：低温科学研究所 教授 渡部直樹

研究課題名：「星間塵表面における分子進化の解明：素過程からのアプローチ」

研究期間：平成29～33年度

本研究では、宇宙の超高真空・極低温という極端環境で、分子がいかに進化を遂げたかを知ることが目標とされています。分子進化に重要な役割を果たす始原的な星間分子 (H_2 , H_2O , CO_2 等) や多くの有機分子の生成には、星間塵と呼ばれる極低温微粒子 (サブミクロンサイズ) 上での表面反応が不可欠です。表面反応は表面の化学組成や構造に大きく依存し、それが分子雲の化学的多様性にも繋がると考えられますが、その詳細はわかっていません。そのため、分子進化の理解には未だ推測による部分が多く残され

ています。

本研究では、宇宙環境を再現した実験装置内に、星間塵物質であるケイ酸塩鉱物、炭素質物質、氷を作製し、それぞれの表面における化学物理素過程を系統的な実験で明らかにすることで、星間分子生成の詳細を明らかにします。これにより、これまでブラックボックスであった宇宙における初期分子進化の全容解明に、初めて迫ることができると期待しています。

【新学術領域研究】

我が国の学術水準の向上・強化に繋がる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させることを目的とするもの。

研究領域の概要

領域代表者：理学研究院 教授 加藤昌子

研究領域名：「ソフトクリスタル：高秩序で柔軟な応答系の学理と光機能」

領域設定期間：平成29～33年度

本研究領域では、蒸気にさらず、擦る、回すなどの極めて弱いマクロな刺激に応答して、発光や光学特性などの「目に見える」性質が変化する新奇物質群、「ソフトクリスタル」の学理の確立と、これに基づく全く新しい機能性素材の開拓を目的とします。ソフトクリスタルは、規則正しい結晶構造・周期構造を持つ安定な構造体でありながら、特定の弱い刺激で容易に構造変換や相転移を起こすことが特徴です。高秩序で柔軟な応答系であるソフトクリスタルの形成条件や相転移現象の解明は、分子科学技術における最も挑戦的課題の一つとも言え、この学理を打ち立てることで、従来型の結晶やソフトマターを超えた機能性材

料を提供しうる新領域を創成することができると考えます。

本領域において、物質創製、構造制御、物性解明、理論的アプローチ、機能導出の研究が連携してスパイラルアップすることにより、ソフトクリスタルの学理を世界に先駆けて確立できると考えられます。従来複雑と考えられてきた物質/現象の学理解明や設計原理の確立により、未踏機能材料開発への展開が期待できます。また、柔軟かつ高秩序な物質系というソフトクリスタルの特長を生かせば、これまでになく低刺激応答性材料や機能性材料の開発も期待できます。

イノベーション・ジャパン2017に出展

8月31日（木）・9月1日（金）の2日間、イノベーション・ジャパン2017（主催：国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が東京ビッグサイトにて開催されました。

イノベーション・ジャパンは、大学の研究シーズと産業界の技術ニーズを結びつける国内最大のマッチングイベントであり、今回で14回目の開催とな

ります。400件を超える大学等の研究成果が一堂に集結し、大学単位での発表である「大学組織展示」と研究者単位での発表である「大学等シーズ展示（超スマート社会、情報通信、環境保全・浄化、ライフサイエンス、低炭素・エネルギー、医療、マテリアル・リサイクル、装置・デバイス、シニアライフ（高齢社会）、ナノテクノロジー、防災の11分野）」に分けて展示が行われ、本学からは5展示を出展し

ました。

各ブースとも企業関係者や研究機関関係者らが数多く訪れ、展示内容について熱心に質問し、意見交換を行いました。終日、人の流れは途切れることなく、本学の最先端の研究成果を産業界に広くアピールできた2日間となりました。

（研究推進部産学連携課）

本学の出展テーマ（5展示）

【大学組織展示】

持続可能性水産科学

代表者：水産科学研究院 教授 安井 肇

【大学等シーズ展示】

〔低炭素・エネルギー分野〕

循環型水素エネルギー技術の画期的な応用ートリチウム除染システムー

代表者：工学研究院 准教授 松島永佳

〔医療分野〕

「病は気から」のメカニズム解明と創薬化を目指す

代表者：遺伝子病制御研究所 教授 村上正晃

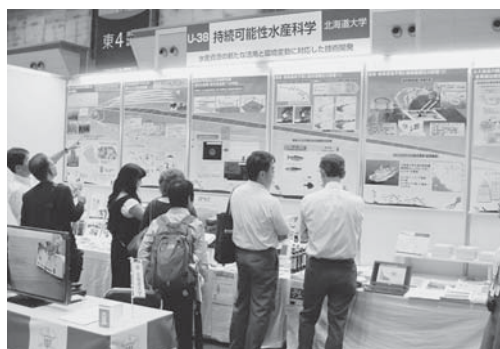
新規接着材料リン酸化プルランを用いた体内埋植医療製品

代表者：歯学研究院 教授 吉田靖弘

〔装置・デバイス分野〕

金属酸化物粉末の「同定」と精密品質管理を可能にする電子トラップ密度解析装置

代表者：触媒科学研究所 教授 大谷文章



大学組織展示の様子



大学等シーズ展示の様子

北洋銀行ものづくりテクノフェア2017に出展

7月20日(木)、アクセスサッポロ(札幌市白石区)にて「北洋ものづくりテクノフェア2017」が開催され、本学も出展しました。

本フェアは優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的としています。今回は出展者が220社、来場

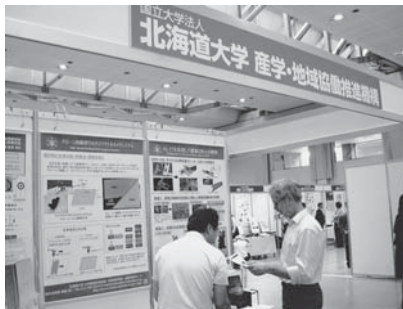
者が約4,800名となり、過去最多の規模となりました。

本学のブースでは、情報科学研究科の飯塚博幸准教授の研究シーズ「戦略的対戦ゲーム人口知能の開発」他、工学研究院の江丸貴紀准教授の研究シーズ「AI・ITを活用した農業ロボットの開発」、理学研究院の栗原純一特任准教授の研究シーズ「ドローン搭載用マルチスペクトルカメラシステム」、

グローバルファシリティーセンターの展示を行い、多くの訪問者がありました。共同研究までの手順や本学研究者の研究シーズについて具体的な相談がありました。

中小企業や中小企業支援機関等との交流がますます深まった1日となりました。

(産学・地域協働推進機構)



ブースの様子

IoT/AI技術で切り拓く農業改革等への糸口 「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2017」を実施

7月20日(木)にアクセスサッポロ(札幌市白石区)で、IoT/AI技術で切り拓く農業改革等への糸口「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア2017」(北洋銀行ものづくりテクノフェア2017と同時に開催)を実施しました。

本イベントは、道内の研究機関(大学・高等専門学校・公設試験研究機関)の研究者が、主に道内の企業向けに、各大学・高等専門学校・公設試験研究機関が保有する農業分野等に活用できるIoT/AI技術に関する研究シーズをわかりやすく紹介し、共同研究のきっかけを作ることを目的としています。

今回は、本学、帯広畜産大学、北見工業大学、室蘭工業大学、函館工業高

等専門学校、北海道立総合研究機構、北海道が主催、株式会社北洋銀行、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会が後援となり、10件の研究シーズの紹介を行いました。本学からは、情報科学研究科の近野敦教授、飯塚博幸准教授、工学研究院の江丸貴紀准教

授、理学研究院の栗原純一特任准教授が発表しました。

今後の共同研究等に発展することを期待しています。

(産学・地域協働推進機構)



会場の様子

北海道経済連合会が工学研究院視察を実施

7月27日（木）に北海道経済連合会の産業振興委員会のメンバー17名が工学研究院を来訪し、工学研究院の研究内容聴講、研究室訪問、情報交換会を行いました。

本視察は、工学研究院の優れた研究成果を北海道経済連合会に共有していただくこと、北海道経済連合会と情報交換や技術交流を通じて、本学との共同研究や北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的として実施されました。

工学研究院の研究成果紹介では、佐々木浩一教授、菊地竜也准教授、佐

藤 久准教授、萩原 亨教授、石田晃彦助教、永田晴紀教授、幅崎浩樹教授から発表がありました。視察メンバーからは、各研究内容に関する質問や実用化等について、具体的な相談があり

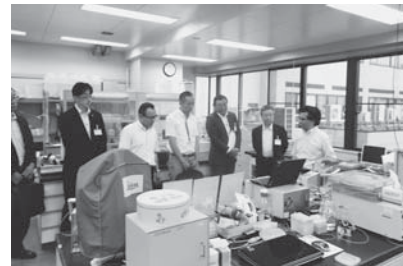


研究内容聴講

ました。

北海道経済連合会の産業振興委員会との交流が深まった1日となりました。

（産学・地域協働推進機構）



研究室訪問

Hokkaidoサマー・インスティテュート&国際ソフトマターサマースクール2017を開催



サマースクール講師及び参加者一同

国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションでは、生命科学院が実施するHokkaidoサマー・インスティテュート科目と連携し、7月30日（日）から8月11日（金・祝）まで、ソフトマター分野ではアジア初となるサマースクールを開催しました。前半1週間は滝沢セミナーハウスで、後半1週間は本学札幌キャンパスで開催された本サマースクールには、米国、フランス、イタリア、オーストリア、オランダ、ニュージーランド、中国、台湾、香港、韓国、日本から合計84名の大学院生と若手研究者が参加しました。

講師陣として、ノースカロライナ大

学チャペルヒル校、デューク大学、ノースカロライナ州立大学、ニューヨーク大学、ハーバード大学、コーネル大学、パリ市立工業物理化学高等専門大学、キュリー研究所、中国航空航天大学、ロシア科学アカデミー、浦項工科大学校、京都大学から著名な研究者を13名招へいし、ソフトマター科学の基礎知識と幅広い見識を培うことを目的とした講義が行われました。

学習プログラムには、アクティブラーニングを積極的に導入し、質疑応答及びグループプロジェクト等を通じて、学生が講義で習得した知識を活用する場となりました。また、本学オープンファシリティやソフトマターに特

化した研究施設であるソフトマター機器共有ユニット（SMOU）の見学、大学院生のポスター発表セッション等も設けられ、ポスター発表を行った3名の大学院生が英国王立化学協会からソフトマター賞を授与されました。さらに、本サマースクールでは、講義のみならず、野外活動（洞爺湖クルーズ、ノルディックウォーキング）の機会が用意され、海外や道外からの参加者に北海道の大自然を身近に感じてもらうことができました。

全参加者の約70%以上が外国籍であったため、参加者同士の異文化間交流が活発に行われ、本学の国際化に資するものとなりました。この取組を加速させることで、来年4月に新設される生命科学院ソフトマター専攻に、世界各国から優秀な学生を受け入れるとともに、ソフトマターの先端研究を、さらに深く発展させていく予定です。

◆サマースクール概要（英語）

<https://gi-core.oia.hokudai.ac.jp/gss/summer-school2017/>

（国際連携研究教育局）

「先端ソフトマターに関する北海道大学-ImPACTジョイントシンポジウム：一分子からタフポリマーへ」開催

8月7日（月）・8日（火）の2日間、フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホールにおいて、国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションと内閣府「革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）」による研究開発プログラム（プログラムマネージャー：東京大学 伊藤耕三教授）との共同でシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、今夏、「Hokkaidoサマー・インスティテュート&国際ソフトマターサマースクール2017」が開催されるにあたり、ソフトマター分野を代表する数多くの著名な研究者が世界各国から集結することから、その機会を利用して、実施する運びとなったものです。

国内からは本学、東京大学、大阪大

学、東京工業大学、名古屋大学、山形大学、理化学研究所、九州大学、お茶の水女子大学、海外からはノースカロライナ大学チャペルヒル校、デューク大学、ノースカロライナ州立大学、ニューヨーク大学、ハーバード大学、コーネル大学、パリ市立工業物理化学高等専門大学、中国航空航天大学、ロシア科学アカデミーの研究者らが最先端のソフトマター研究に関する講演を行い、活発な質疑応答が行われました。

2日目には、ポスター発表が開催され、ソフトマター及びタフポリマー研究に関する最新の技術や知識について、活発に意見交換が行われました。本シンポジウムには計165名が参加し、2日間にわたり貴重な研究交流の

機会となりました。

◆北海道大学-ImPACTジョイントシンポジウム概要（英語）

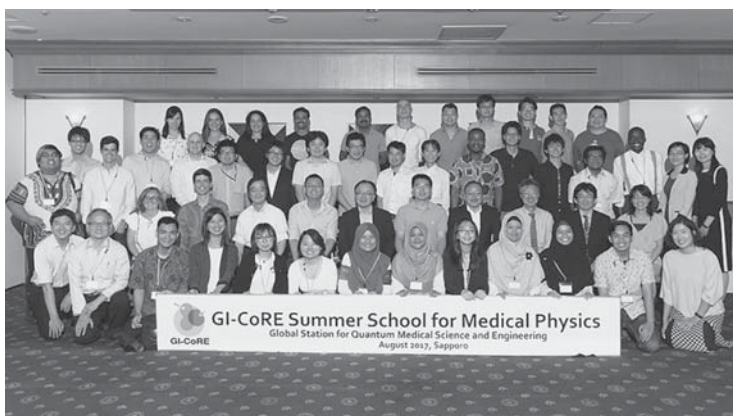
<https://gi-core.oia.hokudai.ac.jp/gss/gss-impact-jointsympo/>

（国際連携研究教育局）



シンポジウム講演者及び関係者一同

国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第4回医学物理サマースクールを開催



講師及び参加者一同

GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションは、スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で、8月21日（月）から25日（金）まで、国際連携機構大講義室及び陽子線治療センターにて第4回GI-CoRE医学物理サマースクールを開催しました。今年で4度目となる本サマースクールには昨年度の約2倍に相当する98名の応募があり、厳正な

書類審査の結果、米国、英国、中国、スペイン、オランダ、インド、ベトナム、シンガポール、フィリピン、インドネシア、ガーナ、ナイジェリア、コロンビア、オーストラリア、日本を含む世界15カ国から36名が参加しました。

講師陣は、医学研究院、工学研究院、保健科学院、北海道大学病院、ア

イトープ総合センターからの参加に加え、スタンフォード大学、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、名古屋陽子線治療センター、株式会社日立製作所からも卓越した多彩な講師を迎え、理論のみならず、陽子線治療装置やアイソトープ総合センターでの画像誘導放射線治療（IGRT）実習といった臨床研修も網羅した包括的なコースを提供しました。

なお、全講義実施後の参加者アンケート調査では、大変有意義で学びの多いコースであったと好評を博すと同時に、講義や実習内容に関する様々な意見をいただきました。本サマースクールは、来年度からサマー・インスティテュート科目としても履修可能となる予定です。本年4月に開設された医理工学院の充実とともに、本サマースクールも更なる発展を目指します。

（国際連携研究教育局）

■ 部局ニュース

「北海道大学－北京科技大学 協定締結30周年記念式典」を開催



式典後の集合写真

8月29日（火）、工学部オープンホールにて「北海道大学－北京科技大学協定締結30周年記念式典」を開催し、工学研究院・工学院の学生・教員を中心に100名ほどが出席しました。

本学は、1986年に中国の大学として最初の大学間交流協定を北京鉄鋼学院（1988年に北京科技大学に改称）と締結し、提案部局である工学研究院が中

心となって、研究交流促進のためのシンポジウムをこれまで計14回交互に開催してきました。

本式典では、名和豊春総長及びXinxin Zhang北京科技大学学長の挨拶があった後、馬場直志室蘭工業大学理事・副学長及び中華人民共和国駐札幌総領事のZhenyong Sun総領事の来賓挨拶があり、引き続き、笠原正典理事・副

学長から両大学のこれまでの交流の紹介が行われました。

次いで、これまでの両大学間の交流の発展に多大な貢献があったことを称え、本学からは高橋平七郎名誉教授、北京科技大学からはBenfu Hu教授が交流功労者として表彰されました（Hu教授は欠席のため、Wenbin Cao北京科技大学教授が代理受領）。

最後に、永田晴紀工学研究院教授及びCao北京科技大学教授による特別講演が行われ、式典は盛会裡に終了しました。

午後は、工学研究院材料科学部門を中心として、15回目となる合同シンポジウムが行われ、学生・教員による交流が活発に行われました。

今後も両大学間では、さらなる研究交流の促進を目指し、活発な交流を続けていきます。

（工学院・工学研究院・工学部）



名和総長による挨拶



Zhang学長による挨拶



馬場室蘭工業大学理事・副学長による来賓挨拶



Sun総領事による来賓挨拶



（左から）高橋名誉教授、名和総長、Zhang学長、Cao教授

工学研究院で「日中韓工学系合同シンポジウム関係校会議」を開催

工学研究院では、8月30日（水）、工学部アカデミックラウンジ3にて「日中韓工学系合同シンポジウム関係校会議」を開催し、日本国内、中国及び韓国から本学を含む9大学、26名が参加しました。

本関係校会議は、昨年、工学研究院から交流を行っている関係大学に合同シンポジウムの開催を提案し、そのシンポジウム開催に向けた議論を行うために集まったものです。

会議に先立ち、名和豊春総長から開会挨拶があった後、参加者による自己紹介が行われ、引き続き、増田隆夫工学研究院長より、本合同シンポジウム

の開催趣旨及び日中韓工学系連携の将来構想について説明がありました。

その後、参加者間で意見交換が行われ、シンポジウムの開催時期や開催校などについて協議した後、笠原正典理事・副学長からの閉会挨拶で成功裡に

終了しました。

会議終了後は交流会を開催し、参加者の親睦を深めるなど、非常に有意義な時間となりました。

（工学院・工学研究院・工学部）



名和総長による挨拶



出席者の集合写真

水産科学研究院でひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ 「これが意外とムズカシイ!ヤドカリたちの社会関係」を実施

8月8日（火）に函館キャンパスにおいて「ヤドカリのオスの婚活をのぞいてみよう」を開催しました。これは科学研究費助成事業「基盤研究（C）：ヤドカリの配偶者選択：他個体との遭遇履歴を社会情報として利用するか」（研究代表者：和田 哲教授）による成果をもとに、本学の科学研究の一部を体験してもらうプログラムです。

本プログラムは、高校生を対象に募集し、道内外から訪れた9名の高校生を参加者に迎え、水産学部管理研究棟において実施されました。開講式では本プログラムの趣旨説明と科研費に関する説明、次に「行動生態学入門」と題した講義を行い、行動生態学の基

本的な考え方などを説明しました。

その後、参加者が自ら、ヤドカリの交尾前ガード行動の観察や、オスは他のオスがガードしているメスに興味を示すことを実証する実験を行いました。参加者は大変熱心に観察していました。

講義や実験の途中に挟んだ昼食時やクッキータイムには、当日スタッフとして参加していた水産学部の学生や大学院生と、また参加者同士、和やかな雰囲気の中で交流を図りました。高校生である参加者にとって、大学での研究生生活を知る良い機会になったと思います。

予定していた全ての講義・実験を無事に終了し、修了式で修了証書の授与

を行い、記念に集合写真を撮影して閉講となりました。

本プログラムを通して、参加者は、希少なサンプルや高額な機械がなくても、身近な道具を使って身近な動物を観察することにより、おもしろい現象を発見したり、感じた疑問を自分なりに追求することができることを学び、「研究」をより身近に感じてもらえたと思います。

最後に、参加者募集から当日のサポートまで尽力してくださった教職員及び学生並びに講師の方々に心より感謝申し上げます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



ヤドカリの行動観察



クッキータイムの様子



修了証書授与

北海道大学獣医学部×札幌市円山動物園 市民公開講座 「科学する動物園—大学と動物園の連携が拓く未来—」を開催

獣医学研究院・獣医学部では、本年2月に札幌市円山動物園と締結した連携協定の締結記念キックオフ企画として、「科学する動物園—大学と動物園の連携が拓く未来—」をテーマにした市民公開講座を8月25日（金）に獣医学研究院講堂において開催しました。

この連携協定は、獣医学研究院・獣医学部と札幌市円山動物園が、相互の連携を強化しながら、それぞれの資源・機能を効果的に活用し、動物に関する教育研究活動の拡充を図り、もって動物の福祉、人・動物・環境の健全な共生、並びに動物園と大学の役割向

上に寄与することを目的としています。

市民公開講座は、互いの理解を深め、連携の第一歩として開催したもので、約180名（市民参加者47名、本学獣医学部及び帯広畜産大学の共同獣医学課程の学生87名を含む）が参加しました。

堀内基広獣医学研究院長及び加藤修札幌市円山動物園長の挨拶の後、第1部として「動物園の将来の機能について」と題して小菅正夫札幌環境局参与（円山動物園担当）による基調講演が行われ、第2部は「北海道大学獣医

学部及び円山動物園による報告」として、双方の教職員により、これまでの共同研究や連携活動の取り組みと今後の展望の報告がなされました。

また、公開講座終了後には、連携協議会を新たに設置及び開催し、今後の連携活動に関する実務者協議を行い、獣医学教育、研究及び獣医医療のより一層の推進、動物園獣医師の知識や技術向上等の人材育成を目指して意見交換が行われました。

（獣医学院・獣医学研究院・獣医学部）

講座内容

第1部 「動物園の将来の機能について」 小菅正夫 札幌市環境局参与（円山動物園担当）

第2部 「北海道大学獣医学部及び円山動物園による報告」

①「円山動物園のゾウ導入に向けた取組について」

朝倉卓也 札幌市円山動物園飼育展示課

②「北大と動物園の連携事業～これまでの取り組みと今後の展望～」

大澤夏生 札幌市円山動物園飼育展示課

③「病理学の視点から見た大学と動物園の連携」

木村享史 北海道大学大学院獣医学研究院教授

④「動物園動物の繁殖を支える—円山動物園との連携と共同研究—」

柳川洋二郎 北海道大学大学院獣医学研究院助教



公開講座開会の挨拶を行う堀内研究院長



基調講演を行う小菅札幌市環境局参与

北方生物圏フィールド科学センターでサステナビリティ・ウィーク2017公開講座「日米における古くからの農法から農業のサステナビリティを学ぶ」を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、国際食資源学院と共催で、8月8日（火）に学术交流会館小講堂で、サステナビリティ・ウィーク2017公開講座「日米における古くからの農法から農業のサステナビリティを学ぶ」を開催しました。

日本の九州・阿蘇地方に広がるススキ草原は千年以上昔から、そこに住み農業を営む人々が牛馬を飼い、草を利用するために手を加え、維持されてきました。一方、アメリカ南西部半乾燥地域では、原住民によりアガベ類植物が伝統的に栽培・利用されてきました。ススキ及びアガベ植物は、現在、バイオエネルギー作物候補としても注目されています。そこで、日米異なる環境下で成立した持続的農地生態系を解説し、将来の人口増加や急激な気候変動の緩和のため、食料やエネルギーの持続的生産技術の開発の必要性を広く市民にも理解してもらうことを目的として、公開講座を開催しました。

北方生物圏フィールド科学センターでは、約10年にわたり、ススキに関する国際共同研究として、ススキ属植物の遺伝解析及び阿蘇ススキ草原における土壌炭素蓄積などの研究を実施しており、北方生物圏フィールド科学センターの山田敏彦教授、愛媛大学の当真要准教授から、これまでの国際共同研究の成果について紹介がありました。また、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターの小路 敦上級研究員から、阿蘇の伝統的な草原管理から生み出される生態系サービスに関する説明があり

ました。さらに、本学外国人招へい教員であるJ. Ryan Stewart特任准教授（アメリカ・ブリガムヤング大学）から、アメリカ南西部やメキシコに自生している耐乾性多肉植物アガベ類植物の特性や特徴及び食料やエネルギー利用の可能性について説明がありました。会場からは多くの質疑が出され、活発な討議が行われました。今後は、日米における古くからの農法からアイデアを得ながら、次なる2国間国際共同研究の展開を考えていきます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



開会挨拶を述べる山田教授



講演者の集合写真

北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、9月2日（土）に学内教職員を対象とした「じゃがいも掘り」を開催しました。秋風が心地よく吹く穏やかな天候の中、抽選で選ばれた157組の教職員が参加しました。

会場は第1農場西側で、ひまわり畑が隣にあります。子供連れの参加者もあり、受付が終わると、子供は畑の中をはしゃぎ回りながら会場までの道のりを楽しんでいました。今年は午前

「とうや」、午後「きたあかり」の2品種の畑を用意し、あちらこちらで参加者の歓声があがっていました。また、会場入口には普段農場で使用しているトラクターを展示し、運転席に乗車して記念撮影をする参加者の姿も多く見られました。

参加者からは、「このイベントのおかげで子供たちへ北大の環境のすばらしさを伝えることができました」「北大のじゃがいもはとても美味しいので毎年楽しみにしています」など、生産

者にとって嬉しい声が聞かれました。

生物生産研究農場では、体験的な農場実習のカリキュラムの中で、農産物の販売を視野に入れたじゃがいもの育成をプログラムに取り入れています。農場ではこうして育成したじゃがいもを実際に販売することによって、農場の教育・研究活動を知っていただき、学内の方々と交流を進めたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



じゃがいも掘り会場



掘り方を説明するスタッフ



じゃがいもを持ち帰る参加者



トラクターに乗って記念撮影

法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座 「社会の分断をいかに乗り越えるか？」が終了

法学研究科及び附属高等法政教育研究センターでは、7月27日から8月24日までの毎週木曜日（8月17日を除く）、全4回にわたって、公開講座「社会の分断をいかに乗り越えるか？」を開講しました。

本講座は毎年夏に一般市民を対象に開催しているもので、今年で35回目となります。毎年参加される熱心な受講者も多く、法学研究科の夏の恒例行事となっています。今回も定員50名を大きく上回る81名の受講者を得ての開催となりました。

国内外における階層格差の激化、移

民・難民排斥の気運の高まり、性差別・人種差別の「復活」、ヘイトクライムの流行など、現在、世界は人々の間を切り裂く多様な分断によって暗く彩られています。こうした問題に我々はどのように向き合い、克服していくべきか。全4回の講座では、講師を務める法学研究科教員が、それぞれの専門であるアメリカ政治、行政学、国際政治学、租税法の視点から、メキシコの麻薬問題、スコットランドの独立・イギリスのEUからの離脱問題、国際政治における広報戦略、租税の公平などを題材に、現代社会の多層的で多様な

分断について検討を行いました。

国際的な事例を客観的に検討することで、グローバル化が進む世界に現れる様々な分断の本質をとらえることを目的とした本講座は、参加者の意欲も高く、毎回活発な質疑が行われました。

最終講義終了後に行われた閉講式では、尾崎一郎高等法政教育研究センター長から所定の回数（3回以上）を受講した75名に修了証書が授与されました。

（法学研究科・法学部）

「社会の分断をいかに乗り越えるか？」（道民カレッジ連携講座、札幌市教育委員会後援）

第1回 7月27日（木）

「メキシコの麻薬紛争」 法学研究科 准教授 馬場香織

第2回 8月3日（木）

「EUからの離脱とスコットランド独立をめぐるイギリス政治のゆくえ」 法学研究科 教授 山崎幹根

第3回 8月10日（木）

「国際社会の分断と外交広報」 法学研究科・公共政策大学院 准教授 小濱祥子

第4回 8月24日（木）

「公平な課税の実現に向けた法の現在と課題」 法学研究科 准教授 田中啓之



加藤智章法学研究科長より開講の挨拶



第1回 馬場准教授



第2回 山崎教授



第3回 小濱准教授



第4回 田中准教授



尾崎センター長より修了証書の授与

法学研究科サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・意匠・商標編—」を開催

法学研究科では、8月17日（木）から20日（日）までの4日間、人文・社会科学総合教育研究棟において、サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・意匠・商標編—」を開催しました。

本セミナーは、日本弁理士会から弁理士の継続研修のための外部研修機関としての認定を受けて、平成21年度から毎年度開催しているものです。その実績が認められ、平成26年度には、文部科学省による「法科大学院公的支援見直し加算プログラム」の審査において、本セミナーは「知的財産法領域に

おける社会的ニーズに即応した『実効的な継続教育プログラム』の実施」であることを理由に「特に優れた取組」であるとされました。

第9回目となる本年度は、本研究科の田村善之教授、外部招聘講師の飯村敏明氏（ユアサハラ法律特許事務所弁理士）、林いづみ氏（桜坂法律事務所弁理士）、奥邨弘司氏（慶應義塾大学大学院法務研究科教授）及び韓相郁氏（韓国金・張法律事務所弁理士）によって、著作権法、不正競争防止法等に関する実務的課題につき、数々の重要裁判例を踏まえて分かりやすく講義されました。受講者は、知的財産事件

に携わる実務家（弁理士、弁護士、企業の知的財産部員等）ばかりではなく、大学の教員、大学院生など幅広い分野にわたり約180名となりました。一昨年度からは、修士課程の授業としても開講されています。受講者は熱心に受講されるとともに、講義の最後の質疑応答では現実に即した様々な質問に対し、各講師は丁寧に答えられました。本年度のサマーセミナーも多くの温かい反響をいただいた中で盛会裡に終了しました。

（法学研究科・法学部）



講義を行う田村教授



講義2日目の様子

公共政策大学院が「地方公務員向け・地方議員向けサマースクール」を開催—夕張市の財政破綻の経緯を踏まえ自治体財政の健全化について討議—

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、社会貢献活動の一環として、8月22日（火）・23日（水）に「地方公務員向けサマースクール」を、23日（水）・24日（木）に「地方議員向けサマースクール」を開催しました。

「地方議員向けサマースクール」は、地方分権改革が進む中、ますます重要な役割を果たすことになる地方議会の活性化と議員の自己啓発・自己研鑽に資することを目的に、大学院が取り組むものとしては全国初の試みとして、平成20年にスタートし、本年度で

10回目となりました。また、昨年度から地方公務員向けにも同様のサマースクールを新たに開講しています。

本年、財政再生計画の抜本的な見直しが同意され、夕張市の財政再建が一つの節目を迎えたことから、改めて、夕張市の破綻から何を学ぶべきか考えるため、「夕張市の財政破綻と再生の経緯」を、テーマとして取り上げ、全道各地から「地方公務員向けサマースクール」には33名、「地方議員向けサマースクール」には54名が参加しました。

内容としては、北海道大学公共政策

学研究センターの笠松拓史研究員が「夕張の破綻から学ぶ『道内市町村に今求められる財政運営』」、夕張市の鈴木直道市長が「RESTART Challenge More.」、関西学院大学大学院経済学研究科・人間福祉学部の小西砂千夫教授が「人口減少社会における地方財政」と題して、夕張市の財政破綻の経緯と再生に向けた取り組みについて講演を行いました。

また、全国の先進的な行政改革に係る取組事例集を参考にして、地方公務員・地方議員が、それぞれ5つのグループに分かれてグループ討議を行い

ました。具体的には、受講者が関係する自治体の財政の健全化について、①自治体ごとの現状・課題、②財政の健全化に向けた取り組み内容、③取り組みを進めるにあたっての課題や留意点、という3つの項目について、熱心な議論が交わされました。討議後は、全体でグループ討議の結果発表と意見

交換を行いました。

受講者からのアンケートでもおおむね高い評価を受けており、市町村職員や議員の間で、ともに学び、情報を交換し、議論することができる当スクールのような場が強く求められていることを今回もうかがえました。

今回のサマースクールを一つの契機

として、受講者がお互いに親密なネットワークを形成し、今後とも情報交換を重ねながら同志を増やしつつ、それぞれの地域で地域の活性化・振興などに取り組んでいかれることを期待しています。

(公共政策学教育部・公共政策学連携研究部)



講義風景



全体討議



発表資料の作成

薬学研究院が「第10回薬学研究院研究発表会」を開催

8月4日(金)に、薬学研究院第1講義室において、「第10回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力の向上及び他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化等を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて年2回実施しているものです。

発表会は、佐藤美洋薬学研究院長による開会挨拶の後、生体分子機能学研究室の黒木喜美子助教による「ヒト白

血球抗原HLA-受容体群の多様な分子認識機構」と題する発表及び、衛生化学研究室の柏倉淳一講師による「マスト細胞新規活性化機構およびアレルギー病態との関連性の解析」と題する2件の研究発表が行われました。

本発表会には教員49名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な議論が交わされました。また、参加者へのアンケートを実施することにより、発表に関する感想や改善点等のアドバイスを発表者へ

フィードバックすることでプレゼンテーション能力の向上に役立てています。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーションの参考に、また、共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。

次回は来年3月に開催予定です。

(薬学研究院・薬学部)



発表する黒木助教



発表する柏倉講師

教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2017 (夏季北大プログラム) を開催



ESDプログラム受講生・教員スタッフ

教育学部では、「社会の持続可能な発展にとって教育のもつ役割は何か？」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育) キャンパスアジア・パシフィックプログラムを、韓国・高麗大学校とソウル国立大学校、中国・北京師範大学、タイ・チュラロンコン大学及びロシア・サハリン国立大学の各教育学部と連携して2011年から毎年開催し、今年度は7月19日(水)から28日(金)の日程で行いました(北大生16名、海外生17名)。

これに先立ち、参加北大生を対象に教育学国際講義をHUSTEP国際交流科目受講生と合同で開講しました。本講義は、4名の教員によって「社会的排除とソーシャル・ペダゴジー」「SDGs」「環境教育」「先住民教育」といったESDと深いつながりを持つテーマで行われ、Tyrel Eskelson特任助教のサポートのもと、受講生同士の英語による議論がなされました。さらに本講義は、昨年度に引き続きスーパー・グローバル・ハイスクールである市立札幌開成中等教育学校との高大連携による共同開講として実施し、教育学部生の英語によるコミュニケーション、プレゼンテーション力量の向上を目指した取り組みとして展開されました。

また、本プログラムは派遣先大学ごとに海外生活のサポートをし合う「バディ・プログラム」を特徴としています。留学生を出迎えることから始まり2日目はオリエンテーション及びキャン

パスツアーののち、Juha Hämäläinen先生(東フィンランド大学)及びDaniel Schugurensky先生(アリゾナ州立大学)による、ソーシャル・ペダゴジーとESDに関する基調講演と討議に参加しました。3日目には討議で得られた気づきに関する振り返りセッションが実施されました。

本プログラムのもう一つの特徴は、「北海道の先住民であるアイヌ民族の文化の理解及び彼らと共存・共生する日高管内平取町の地域振興とアイヌ政策推進について学び考える」という、社会文化的観点から見たESDをテーマとした、日高町や平取町におけるフィールドワークの実施です。今年度は、7月22日(土)から2泊3日の日程で、訪問前にはジェフリー・ゲーマン准教授の事前講義を行いました。

フィールドワークでは、平取町アイヌ文化保全対策課の吉原秀喜氏による「地域文化資源の保全・活用&ESD-北海道平取町のアイヌ文化環境保全対策の事例-」と題した講演に始まり、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の見学、川上 満平取町長による「平取町における地域振興とアイヌ政策推進の取り組み」についての講演及び



市立札幌開成中等教育学校におけるESD事前学習の様子

び萱野茂二風谷アイヌ資料館館長の萱野志朗氏による講演を受け、アイヌの歴史と文化に対する理解を深めると同時に、伝統的料理を作る体験や歴史的史跡を徒歩でめぐるツアーなど、五感で感じるアクティブ学習を行いました。

本プログラム8日目午後から、北大プログラムのまとめとして、受講生が6つのグループに分かれ、最終報告を行いました。報告では、ここまで学んだことをふまえて、社会的発展を阻害する現在の様々な国際的問題について発表し、自国での現状と照らし合わせ、白熱した議論が行われました。報告会終了後は、受講生へ修了証書と記念品を授与し、実りある交流が達成できました。

本事業の特徴は双方向型短期留学であり、ESD夏季北大プログラム終了後、北大生は2~4名の5グループに分かれて海外5大学へ派遣されます。訪れた現地では、各大学のバディと再会し10日間の秋季海外大学プログラムに参加します。さらに、来年2月には市立札幌開成中等教育学校の教諭・生徒及び平取町フィールドワークの各講師を招待して最終報告会を行う予定です。

このように、本プログラムへの参加が契機となり、本学学生と海外大学生が将来的に国家を越えての交流を継続することや、社会の持続可能な発展のために寄与できる「グローバル人材」として成長することが期待されます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



アイヌの伝統料理に挑戦する参加者

農学院において「留学生オリエンテーション」を開催

7月28日（金）に農学院留学生オリエンテーションを行いました。札幌農学同窓会の後援によって行っているこの行事は、留学生主催の新年会とともに約30年以上続いており、今年は11ヶ国からの留学生35名と教職員6名が参加しました。

午前中は、旭川にある地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場を訪問し、林産試験場長

の挨拶の後、4名の研究員による試験場全体の説明を受けました。そして、木材の製材・乾燥、破壊試験、合板製造、さらにキノコ栽培研究の現場を見学しました。中でも、カラマツの内部まで乾燥させる技術、トドマツ圧縮材、シラカバ集成材などに加え、ビルを建てることもできるCLT（クロス・ラミネイティド・ティンバー、直交集成板）の実用化についての説明

は、留学生たちにとって大変興味深いものでした。

午後には、北竜町の「ひまわりの里」で一面のひまわり畑と北竜中学校の生徒が育てた「世界のひまわり」畑を散策し、留学生にとってとても充実した1日となりました。

（農学院・農学研究院・農学部）



説明を受ける留学生（北海道立総合研究機構）



北海道立総合研究機構の前で



ひまわり畑で写真を撮る留学生（北竜町ひまわりの里）

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究院、歯学研究院では、8月2日（水）に北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において、医学及び歯学研究のため尊い御遺体をささげられた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、笠原正典理事・副学

長、吉岡充弘医学研究院長、横山敦郎歯学研究院長ら29名が参列し、参列者全員による黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



献花をする笠原理事・副学長

附属図書館でフィンランドをテーマとした図書展示を開催

6月19日（月）から7月31日（月）にかけて、附属図書館（北図書館）において、「第2回北海道大学フィンランドデイ：関連資料展示」を開催しました。

これは、欧州ヘルシンキオフィスの主催により6月25日（日）に開催されたイベント「第2回北海道大学フィンランドデイ：みんなで夏至祭を楽しもう！」との連動企画として開催したも

のです。また、附属図書館は北海道唯一のEU情報センターに指定されており、その活動の一環でもあります。

ヘルシンキオフィスの田畑伸一郎所長をはじめフィンランドに関連する授業を担当する教員のほか、「第2回北海道大学フィンランドデイ」講師陣等の協力により、フィンランドにまつわる資料103点を紹介者のおすすめコメントと共に展示しました。また、横澤

宏一教授（保健科学研究院）からお借りした、18世紀初頭の北欧王家の系図と当時のスカンジナビアの古地図（当時のフィンランドはスウェーデン領）、フィンランド独立（1917年）直後の国境を示す地図（4枚）を特別展示し、フィンランドを様々な視点から紹介しました。

（附属図書館）



図書展示の様子



附属図書館で「数学」「物理学」「統計学」入門図書展示を開催

6月20日（火）から8月7日（月）にかけて、附属図書館（北図書館）において、「数学」「物理学」「統計学」入門図書展示を開催しました。これは、高等教育推進機構ラーニングサポート部門と連携して実施したものです。

ラーニングサポート室スタッフが推薦する「数学（線形代数学・微分積分学）」「物理学（力学）」「統計学」それぞれの入門図書を、紹介者のおすすめコメントと共に展示しました。あわせて、ラーニングサポート室と理学研究院数学部門が作成した学習ガイド「物理のコツ」「統計学のススメ」「核心解

説：線形代数学」を、自由に持ち帰り可能な形で配布しました。

期間中は展示図書24点のうち21点が借り出されたほか、学習ガイドも頻繁に補充が必要なほど持ち帰られ、学生

の学習に大いに役立ったことがうかがえました。

（附属図書館）



図書展示の様子

■お知らせ

ドイツから返還されたアイヌ民族のご遺骨の安置について

7月31日（月）にドイツから日本へ返還されたアイヌ民族のご遺骨は、8月2日（水）、本学のアイヌ納骨堂に安置されました。

ご遺骨の安置については、本学の「アイヌ民族のご遺骨について、アイヌの方々の尊厳に配慮しつつ、国の政策に協力する」という基本の方針のもと、公益社団法人北海道アイヌ協会と日本政府からの要請に応え、アイヌの方々のご意向に沿った今後の取扱いが決まるまでの間、丁重にお預かりすることとしたものです。

ご遺骨の安置後、加藤 忠北海道アイヌ協会理事長、平井裕秀内閣官房アイヌ総合政策室長からの挨拶の後、名和豊春総長からの挨拶があり、その中で「これからも、北海道大学としてアイヌ文化の振興に関わっていきたい」と述べ、三者が手を取り合って納骨式を終えました。

（総務企画部広報課）

外国人留学生向け賃貸住宅仲介店舗を設置

8月21日（月）、国際連携機構のエントランスホール内に外国人留学生向け賃貸住宅仲介店舗がオープンしました。

増え続ける外国人留学生に対する生活支援の一環として、賃貸住宅仲介事業店舗を設置し、当該店舗において、賃貸物件の紹介、現地案内、物件や条件に関する重要事項の説明を行い、賃貸借契約に伴う必要書類や諸費用の授受等の入居手続きのサポートを行います。また、日本語に不慣れな外国人留学生のために英語と中国語での対応可能なスタッフを配置しています。

（国際部国際教務課）



店舗の様子

レクリエーション

学内教職員ソフトボール大会の開催

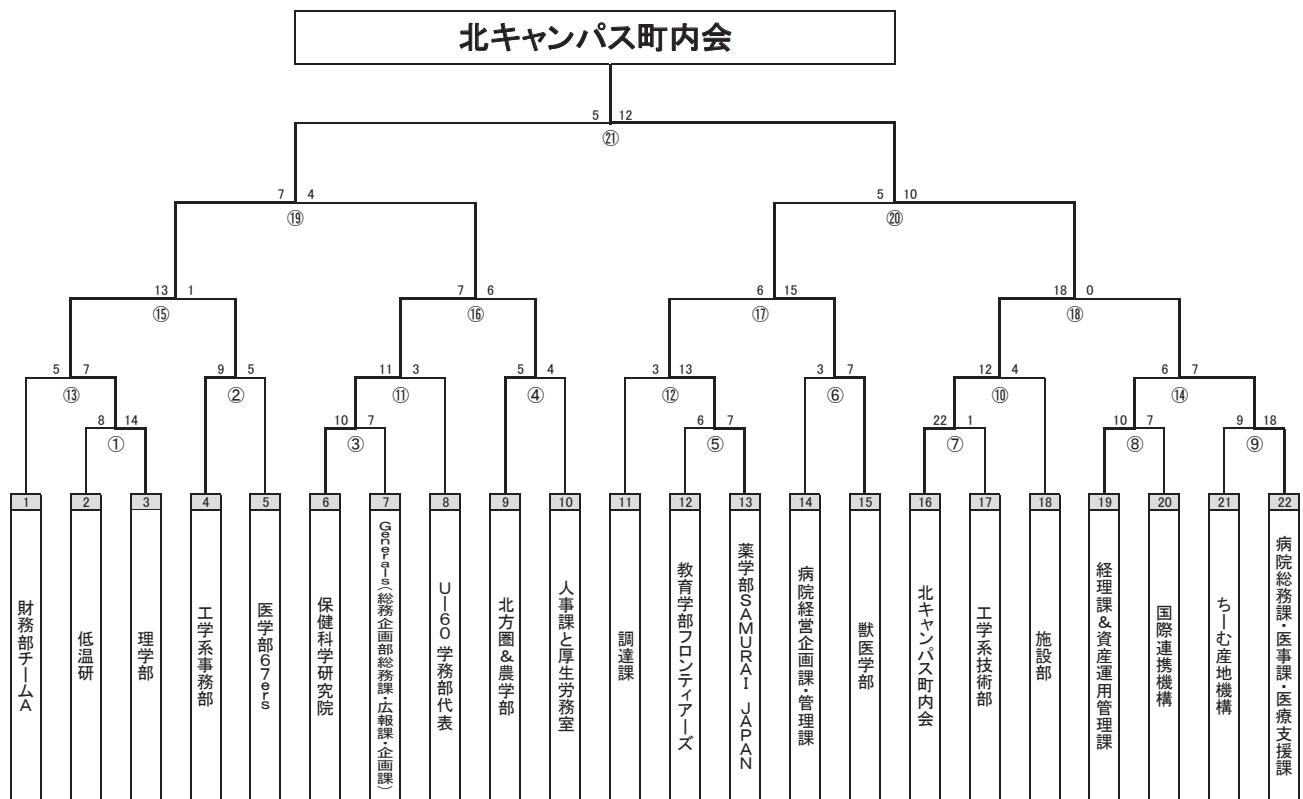
学内教職員ソフトボール大会を、6月12日（月）から8月21日（月）の約2ヶ月間にわたり、本学B球場で開催しました。

参加22チーム・約400名の選手により、連日熱戦が繰り広げられました。選手のみならず、応援の方々の多くの歓声があふれる中、「北キャンパス町内会」チームが見事に栄冠を勝ち取りました。

なお、対戦結果は以下のとおりです。

(全北大野球部, Re-birth)

平成29年度 教職員ソフトボール大会



優勝「北キャンパス町内会」チーム



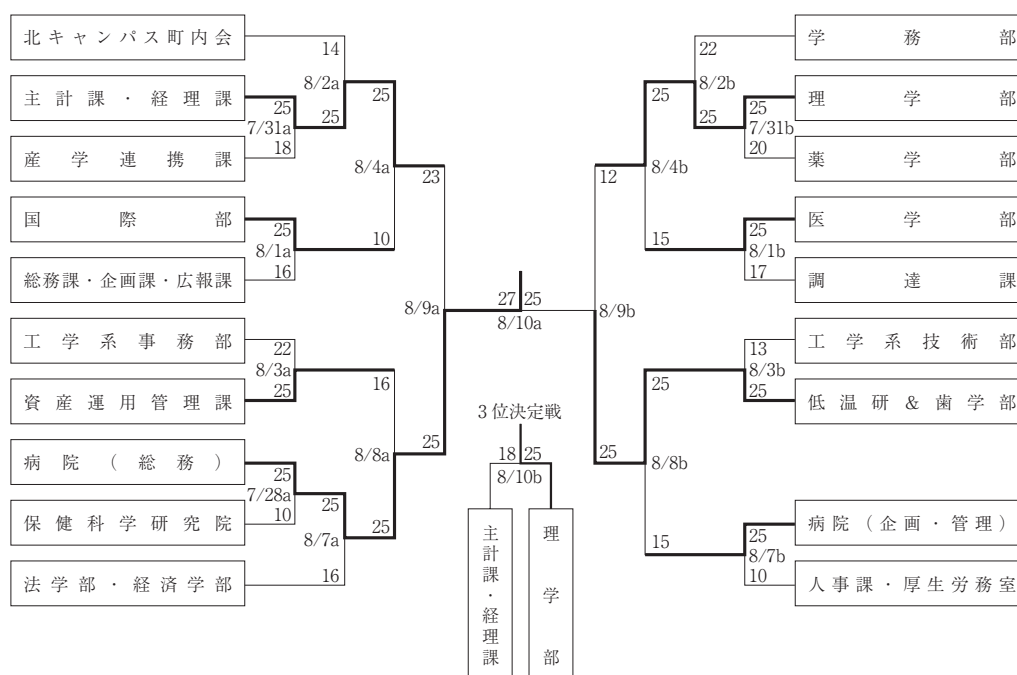
準優勝「理学部」チーム

平成29年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーションの一環として例年実施しているバレーボール大会を7月28日（金）から8月10日（木）まで、第2体育館で開催しました。今年度も多くの教職員が参加し、活気あふれる大会となりました。

なお、結果は以下のとおりです。

（職員排球部）



優勝 病院（総務）



準優勝 低温研&歯学部

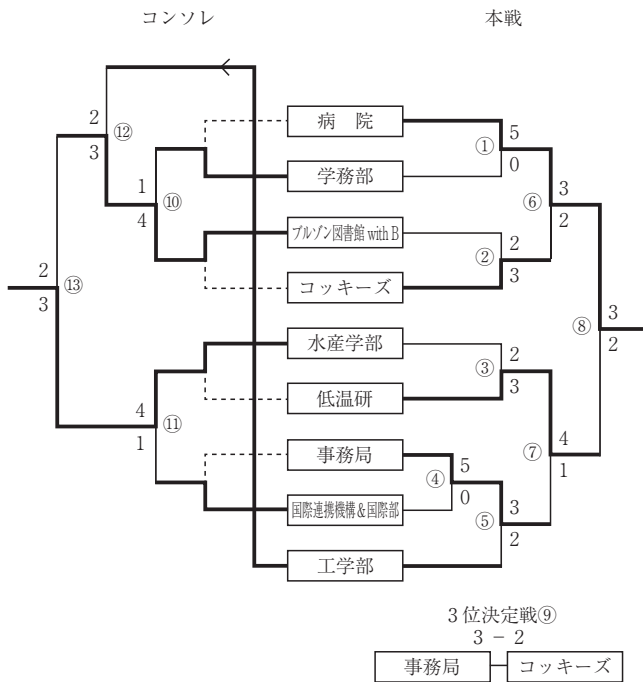


第3位 理学部

教職員テニス大会の開催

9月2日(土)、工学部・学務部・低温研の各コートで職員硬式庭球同好会主催による学内内部局対抗戦を開催しました。参加者は総勢94名で、結果は次のとおりです。

(職員硬式庭球同好会)



本戦	優勝	病院
	準優勝	低温研
	3位	事務局

コンソレ	優勝	水産学部
	準優勝	プルゾン図書館 with B
	3位	工学部 国際連携機構&国際部



優勝



準優勝



3位



コンソレ優勝

■ 研修

平成29年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修

開催期間：平成29年 8月23日～25日

開催場所：工学部フロンティア応用科学研究棟

研修目的：北海道地区国立大学法人等の技術職員として、現在の立場と責務を自覚させるとともに、職務遂行に必要となる知識や社会的識見等を深め、国立大学法人等の技術系業務における中核となるべき職員として、その資質向上を図ることを目的とする。



開講式挨拶
(松藤敏彦技術支援本部副本部長(工学研究院教授))



講義「ハラスメントの防止」
(築田美抄ハラスメント相談室専門相談員)



講義「情報セキュリティ」
(南 弘征情報基盤センター教授)



講義・グループワーク

(技術支援本部)

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.8.2	タマサート大学（タイ）Somkit Lertpaithoon 学長	両大学の交流に関する懇談
29.8.7	西交利物浦大学（中国）Xi Youmin 学長	両大学の交流に関する懇談
29.8.7	ノースカロライナ大学チャペルヒル校（アメリカ）Michael Rubinstein 教授、 パリ市立工業物理化学高等専門大学（フランス）Costantino Creton 教授	国際連携研究教育局ソフトマターグループ グローバルステーションの今後の連携強化に関する懇談
29.8.16	中国教育部 高等学校社会科学発展研究センター Wang Binglin センター長	両国の交流に関する懇談
29.8.28	ザンビア大学（ザンビア）Luke Evuta Mumba 副学長	両大学の交流に関する懇談
29.8.29	国立台湾海洋大学（台湾）Ching-Fong Chang 学長	両大学の交流に関する懇談
29.8.29	RJE3プログラム関連5大学（極東連邦大学、北東連邦大学、イルクーツク国立 大学、サハリン国立大学、太平洋国立大学）学長及び教職員	RJE3プログラム 国際運営委員会参加
29.9.1	プリンスオブソンクラー大学（タイ）ご一行	両大学の交流に関する懇談



タマサート大学（タイ）
Somkit Lertpaithoon 学長（中央）



西交利物浦大学（中国）
Xi Youmin 学長（中央右）



ノースカロライナ大学チャペルヒル校（アメリカ）Michael
Rubinstein 教授（前列中央）、パリ市立工業物理化学高等
専門大学（フランス）Costantino Creton 教授（前列左）



中国教育部 高等学校社会科学発展研究センター
Wang Binglin センター長（前列中央左）



ザンビア大学（ザンビア）
Luke Evuta Mumba 副学長（右）



国立台湾海洋大学（台湾）
Ching-Fong Chang 学長（右）



RJE3プログラム関連5大学（極東連邦大学、
北東連邦大学、イルクーツク国立大学、サハリ
ン国立大学、太平洋国立大学）学長及び教職員



プリンスオブソンクラー大学（タイ）ご一行

（国際部国際連携課）

■人事

平成29年8月22日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【技術職員等】 (辞職)	初山 萌華	北海道大学病院看護部看護師

平成29年8月31日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【助教】 (辞職)	岡本 祥三	北海道大学病院助教
【技術職員等】 (辞職)	齊藤 奈菜子 佐々木 奈央 西村 沙岐子 加藤 伸彦	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院医療技術部臨床工学技士
【特任教授(再雇用)】 (辞職)	家田 修	スラブ・ユーラシア研究センター特任教授

平成29年9月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 大学院医学研究院教授	安齊 俊久	採用
【准教授】 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院経済学研究院准教授 国際連携研究教育局・電子科学研究所准教授 (転出) 東京大学准教授	越川 滋行 五十嵐 洋介 三友 秀之 成田 大樹	採用 採用 国際連携研究教育局・電子科学研究所助教 大学院経済学研究院准教授
【助教】 大学院薬学研究院助教 大学院保健科学研究院助教 (転出) 東京大学大学院工学系研究科助教	松田 研一 山品 博子 大西 直毅	採用 採用 大学院工学研究院助教

新任教授紹介

平成29年9月1日付



医学研究院教授に

あんざい としひさ
安齊 俊久 氏

内科系部門内科学分野循環病態
内科学教室

生年月日

昭和39年12月13日

最終学歴

慶應義塾大学医学部卒業(平成元年3月)

博士(医学)(慶應義塾大学)

専門分野

循環器内科学

訃報

名誉教授 しおかわ ひろゆき
塩川 洋之 氏
(享年92歳)



名誉教授 塩川洋之氏は、平成29年7月21日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正14年3月27日北海道に生まれ、昭和21年9月北海道帝国大学理学部を卒業後ただちに北海道農業会技手として勤務、同24年4月本学理学部研修員を経て同25年1月から同年3月まで文部教官として理学部に勤務されました。昭和25年4月本学大学院前期特別研究奨学生として理学部に在学後、同28年7月本学獣医学部に講師として迎えられ同30年4月助教授に昇任されました。昭和37年7月アメリカ合

衆国ダートマス医科大学へ留学されましたが、同39年7月には本学獣医学部を辞職し、同ダートマス医科大学研究員として引き続きアメリカ合衆国で研究に従事、帰国後同41年4月日本学術振興会流動研究員として大阪大学蛋白質研究所にて研究に従事、同42年4月苫小牧駒澤短期大学教授として迎えられ、栄養化学の教育に貢献されました。昭和44年7月本学結核研究所生化学部門創設のため教授として迎えられ、結核研究所は同49年6月免疫科学研究所に改組されましたが、先生は同63年3月定年により退職するまで、19年余の永きにわたり部門主任教授として教育と研究の指導に貢献され、同年4月に本学名誉教授の称号を授与されました。また、平成16年には瑞宝中綬章を受章されました。

先生の研究活動は、蛋白質の精製と構造研究に終始し、まず昭和37年獣医学部における業績「ボツリヌス毒素の生化学的研究」で本学理学博士の学位を授与され、以後結核菌ツベルクリン蛋白の精製、コンカナバリンAの構造

と糖結合活性の研究、蛋白質抗原と抗体との反応の解析、酵素アシルホスファターゼ、クレアチンキナーゼ、アデニレートキナーゼの一次構造及び抗原決定基の研究等を行われました。特にアシルホスファターゼに関しては世界で初めて結晶化に成功し、さらに2種のアイソザイムを発見してその全一次構造を決定するなど世界をリードする成果をあげられました。また蛋白質の一次構造分析においては、長年北海道に唯一台しかなかった分析機を駆使して他学部、他大学から寄せられた多くの試料の分析をも行い斯界に業績をあげられました。

以上のように先生は蛋白質化学の分野において世界をリードする多くの研究成果をあげ、永年にわたって本学をはじめとするいくつかの大学において、多くの学生、教員を教育、指導し、その功績は誠に顕著であります。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(遺伝子病制御研究所)

名誉教授 おおの きみお 大野 公男 氏
(享年91歳)



名誉教授 大野公男氏が平成29年7月24日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は大正15年6月4日東京市に生まれ、昭和26年3月に東京大学理学部物理学科を卒業、引き続き同大学院に進学、翌年には同大学理学部助手に任ぜられました。昭和32年7月に同大学から理学博士の学位を授与され、その後、スウェーデン、ウプサラ大学量子化学研究所等4か所の海外施設で研究をされ、同39年3月北海道大学理学部講師に着任、同年10月に教授に昇任さ

れました。以来26年間、理学部化学第二学科量子化学講座を担当され、平成2年3月定年退官、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。その後、学術情報センター副所長、北海道情報大学教授を歴任、平成11年4月より3年間、同大学学長として大学運営に尽力されました。

大野先生の研究は一貫して量子力学の化学への適用です。先生が提案された2中心クーロン積分の近似式はOhno近似として半経験的計算法の中で広く使われています。

研究室を主宰されてからは、非経験的理論計算の主要拠点として自己無撞着場法、配置間相互作用法などに基づく種々のプログラムの開発を指導、大きい分子から小さな分子の精密計算まで多くの研究をされ、電子構造理論の発展に貢献されました。

昭和51年に主催された王子国際セミナーは50数名の小規模な国際会議でしたが、この少人数の中に、その後の四半世紀の量子化学のリーダーの大部分

が含まれていました。透徹した科学者の眼が感じられます。また、全国の量子化学者の協力を得て量子化学文献データベースの構築も主導され、更に北海道大学大型計算機センター長を3期務められ、スーパーコンピュータの導入をはじめ大規模計算の環境充実に尽力されました。平成16年には、永年にわたる研究教育上の貢献により、瑞宝中綬章を受章されました。

研究教育上の貢献の他に、北海道大学評議員、学生部長、附属図書館長、触媒研究所の組織運営に関する検討委員会委員、触媒化学研究センター長、学外でも学術審議会専門委員、日本物理学会会長を歴任されました。

先生の長年にわたる学術の進歩、教育及び行政に対するご貢献に感謝し、ここに謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

名誉教授 おおた ほら たかあき 太田原 高昭 氏
(享年77歳)



名誉教授 太田原高昭先生が平成29年8月11日に逝去されました。

先生は昭和14年に福島県会津若松市でお生まれになりました。昭和34年に北海道大学に入学され、その後農業経済学科に進学、博士課程を卒業されて同43年から北星学園大学に赴任されました。昭和46年から北海道大学農学部

農業経済学科の助手となり、同52年北海道大学農学部農業経済学科助教授、平成2年同教授とされました。平成11年には北海道大学農学部長・大学院農学研究科長に就任されました。平成15年に北海道大学を定年退官され、名誉教授とされました。その後、北海学園大学経済学部経済学科教授、北海道地域農業研究所所長、北海道農業担当顧問、北海道スローフード協会代表、日本農業経済学会会長を歴任されました。

太田原先生は、日本における農業協同組合の歴史的な性格・国際的特徴を「制度としての農協」として規定し、地域農業振興の担い手としての農協の理論的・実証的研究を行いました。また、農業者による職能組合としての農

協の意義を積極的に評価し、地域農業振興に果たす農協の役割を明らかにしてきた日本の農業経済学会を代表する研究者であられました。

大学での講義はもちろん、全国各地での講演会など、先生のお話はいつも聞く人の心を掴み、励まし、楽しくさせてくれました。どんなに難しい状況でも、常に実態調査、現場の人々の中に明るい希望を見いだすというそのスタンスは、今こそ求められているものです。全国にいる先生の教え子や影響を受けた多くの方々とともに、先生の長年にわたるご貢献に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)

名誉教授 ^{むらた}村田 ^{かずみ}和美 氏
(享年92歳)



名誉教授 村田和美先生が平成29年8月20日に逝去されました。

先生は、昭和22年9月東京帝国大学第一工学部精密工学科を卒業後、直ちに商工省傘下の大阪工業試験所に研究員として採用されました。昭和26年4月主任研究員、同37年2月光学機械研究室長に昇任された後、同40年10月北海道大学工学部に新設された応用物理学学科に教授として着任され、平成元年3月停年退職されました。その間、マールブルク大学（ドイツ）及びベル

リン工科大学（ドイツ）において、在外研究に従事されました。

本学工学部応用物理学科においては、応用光学講座を担当され、さらに昭和52年11月から同57年9月までは応用計測学講座を兼任されました。両講座における教育と研究を通じて、応用物理学科及び本学大学院工学研究科応用物理学専攻の発展に多大な貢献をされました。また、昭和60年4月から同62年5月まで本学評議員を務められるなど、本学の発展にも尽力されました。本学退職後は、北海道工業大学（平成26年4月に北海道科学大学に改称）教授として教育・研究に貢献され、平成8年4月に同大学から名誉教授の称号を授与されました。

先生は一貫して光工学の研究に従事され、光学の情報論的取扱い、画像処理及びホログラフィに関する研究を精力的に進められました。特に、写真レンズのレスポンス関数に関する研究を

我が国でいち早く手掛けられ、日本で初めて写真レンズ対象の光学的伝達関数測定装置の実用機を作り上げられました。この研究業績により、昭和51年大河内記念技術賞を受賞されるなど、光学産業の発展に多大に寄与されました。

学外においては、応用物理学会、計測自動制御学会、日本写真測量学会の理事・北海道支部長を歴任され、米国光学会フェロー会員となられるなど、国内外の光学関連学会の運営及び発展に力を注がれました。また、昭和59年には我が国で初となる国際光学会議総会を組織委員長として成功裏に開催されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

編集メモ

- 9月になり、キャンパス内の木々も色づき始め、秋の気配が感じられるようになりました。
- 8月23日（水）に、百年記念会館1階にレストラン“北大マルシェ Café & Labo”がプレオープンしました。11月1日（水）のグランドオープンに向けて、試行的に営業していますので、お時間がありましたら、ぜひお立ち寄りください。

◆営業時間 10:00～18:00
（ランチ 11:00～14:00）
定休日 火曜日





2016.9.11 室蘭本線 有珠～長和（伊達市）

北の鉄道風景 54 噴火湾秋景

室蘭から森町に至る噴火湾（内浦湾）の沿岸諸地域は降雪量が少なく、比較的温暖な気候ではあるが、稲作が行われている地域は非常に少ないようだ。豊浦町の礼文華地区などのように、海岸から内陸側に入り込んだ場所での稲作は僅かながら見られる。しかし、噴火湾の海岸に隣接する場所での稲作は、筆者の知る限りでは、写真の伊達市長和地区でのそれのみである。此処の水田を室蘭本線が横断しており、

鉄道風景写真の撮影愛好者の間では、噴火湾とその彼方に薄霞む渡島半島の山々を背景に列車が往く光景を狙える場所として広く知られている。写真は暮れなずむ噴火湾を背景に、函館を目指すくスーパー北斗が黄金色の水田を駆け抜ける光景である。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑨ No.762 平成29年9月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html